

月報

79号

発行所

青丘文庫

編集・発行★韓哲職

〒654 神戸市須磨区須磨寺町4-3-1

メゾンド青丘ビル2階

TEL(078)734-5989 FAX 735-0660

92.10.10

例会報告 信長正義

『韓国キリスト教の歴史』第8章～1

(1926～1935年)

1. 教会の内的葛藤と紛糾現象

1) 「教派神学」現象

1920年代に入って、崔炳憲（韓国最初の神学者・宗教学者と言われた）等の神学者たちは、韓国的風土に合う「土着化」を樹立しようとし、米国の西欧式キリスト教を移入しようとした宣教師たちとの間に摩擦が起り始めた。教育の場では、長老教の平壤神学校、監理教の協成神学校、聖潔教の聖書学院、救世軍の聖經大学、超教派のピアンソン記念聖經学院がそれぞれの教派的特性を持った教科課程や教授方法で伝道者養成を行なっていた。長老教は保守的、監理教は進歩的・自由主義の神学という互いに異なった「教派神学」を作り出し、その上に地方色、教権掌握等の外部的要因も加わり、特に長老派では保守的な宣教師や神学者が多く外国留学で進歩主義神学を吸収した新進の神学者との間に調和を生まない事件が多くなった。

2) 神学的葛藤

長老教会で保守・進歩間の神学的葛藤が表面化したのは、34年の「女権問題事件」と「創世記モーセ著作否認事件」だった。30年代に入って、監理教では女性牧師を輩出するほどに女性問題に対して開放的な立場を取ったが、長老会憲法では伝道師・長老・牧師に女性の進出を認めなかったことに対して、金春培牧師（関西学院神学部卒）はそれを「差別的憲法」と規定したが、長老会総会は金牧師の除名にまで発展しようとした。

3) 教派間葛藤の徴候

かつての長・監の連合運動が20年代後半になって教派教会の利権紛争から瓦解する現象と、地方色が背景となった教権紛争現象が現われた。その一つが「新編讃美歌事件」である。長・監両教会で使用してきた「讃美歌」を、31年に「新訂讃美歌」に改編したが、長老教会がこれを拒否して「新編讃美歌」を発行して使用することにし、監理教は「新訂讃美歌」を使うことになった。

4) 宣教師排斥運動

宣教師たちは3.1運動以後、斉藤総督に対して宣教活動を保証される代価に、韓国キリスト者たちの政治参与と民族運動を、教理的に「不純な行為」と規定したり、韓国教会に対する主人意識と支配意欲、そして第二世代の一部宣教師たちの白人優越主義的な態度が表面化し、民族感情問題を引き起こし、相互不信になっていった。その上非行とスキャンダルに関連した事件が続き、一般社会からも宣教師排斥の気運が高まった。こうした間隙について日帝は反宣教師運動を画策するという複雑な様相を展開するようになった。この韓国教会の宣教師排斥運動は「自立」と「自治」運動と解釈するのが妥当である。

戦前期における在日朝鮮人の選挙権行使をめぐる

松田 利彦

従来、戦前期における在日朝鮮人の参政権の問題に関しては、主に被選挙権の行使（すなわち衆議院以下の各級議員への立候補）が検討されてきた。今回の報告では、参政権のうち一つの側面として、「選挙権」の行使（すなわち投票行動）を通じて在日朝鮮人の政治参与を考えてみた。

まず、在日朝鮮人の衆議院議員選挙権の保有状況を確認してみると、一九二五年の普通選挙法施行以前は、事実上納税要件が在日朝鮮人をシャットアウトしていた。普通法によって、「帝国臣民タル男子ニシテ年齢二十五年以上ノ者ハ選挙権ヲ有ス」とされ、これによって生じた朝鮮人有権者は約一万人であり、以後一九三六年までに四万人以上に達する。ただし、朝鮮人人口に占める有権者数の割合を見ると、三％から一四％程度であり、日本人に比べるとかなり低かった。選挙人名簿に記載されるためには最低一年間（一九三六年からは半年間と改正）同一市町村に定住していなければならないという規定があったため、移動性の高い朝鮮人の有権者層はおのずと限定されてしまったものと思われる。

さて、次に選挙権の行使状況を見てみると、棄権率は五割以上という高率だった。これは一つには、投票の呼びかけが主として国民協会や相愛会といった親日団体によって行われたために、一般の朝鮮人が、投票に反発ないし無関心の態度を取ったためと思われる。また第二に、工場労働者の場合は仕事を休むと、日当がなくなるという事情もあった。このように投票行動は全般的に低調であったが、無産政党への支持というかたちである程度積極的な政治

参与もみられた。例えば、普選後最初の衆議院議員選挙となった一九二八年選挙では、在日労総が日本労働党支持を決議し、応援弁士派遣や応援基金募集などを行った。以後、在日労総解消後も、朝鮮人の支持は、一九三〇年選挙では賀川豊彦（社会民衆党）などに、一九三二年選挙では浅沼稻次郎（全国労働大衆党）馬島們（社会民衆党）などに対して見られた。また三年選挙では、佐野の獄中立候補を求め朝鮮人がデモを求めるといった事件もあった。一方、同時期における親日派朝鮮人の立候補者（朴春琴、李善洪）への支持は少数にとどまったようである。

さて、こうした朝鮮人の政治参与がもたらした成果と言えるものにハンゲル投票の実現があった。当初、ハンゲル投票に関しては、一九二七年の岸和田市議選において内務省によって無効との解釈を打ち出されていた。その一方で前述のように、無産政党への朝鮮人の支持が一定見られるようになり、その中で例えば、一九二八年の在大阪朝鮮人大会では「朝鮮文字の投票を認める」というような要求も現れた。さらに一九三〇年選挙においては、賀川豊彦の立看板にハンゲル文字が用いられたことから、ハンゲル投票が有効かどうかの議論が起こるに至った。内務省法令審議会で討議された結果、ハンゲル投票有効と省議決定された。当時内務省が発表した「理由書」によれば、「朝鮮人の選挙権に対する理解要求共に……進捗せるに拘らず、単に本邦固有の文字を書く能はざるがため折角の権利を行使するを得ざらしむるが如きは甚だ不当なり」とされている。ここでは朝鮮語読みは不可とされたが、ともかくも朝鮮人の参政権の拡大になったことは事実だった。この一九三〇年総選挙ではハンゲル投票は二〇〇〇票余り（朝鮮人総票数の二一％）を占めたのである。

「中国人作家巴金と彼の朝鮮人友人たち」

嶋田恭子

巴金は本名は李堯棠で、1904年に生まれ、現在上海に住んでいる著名な中国の作家である。1919年の五四新文化運動の影響を受け、アナキストとして啓蒙的文章を書き、編集出版活動をするなか、作家としてまた翻訳家としても有名になった。巴金は1936年に「髪の話」という短編小説を、1940年に「火」という長編小説を書いている。これはともに朝鮮人が登場し、朝鮮人の活動について書いた小説である。私は中国人作家が朝鮮人を主題にして書いた作品を他に知らない。巴金は小説以外の文章の中でも朝鮮人について多く語っている。

巴金が作品のなかで語る朝鮮人友人は、高自性（1984～1961）、沈茹秋（1902～1930）、柳絮（1905～1980）、柳子明（1894～1985）の4人である。（「4人以外に知っている朝鮮人はいないか」との嶋田の質問に、巴金は「鄭華岩を知っている。抗戦中に知り合った」という。だが、作品には出てこない。）

高自性は著名なアナキスト柳華永、柳林の名前の方が有名である。1919年三一後、満州に、また沈茹秋（沈容海、沈龍海）は1919年に、柳絮（柳基石、柳樹人）は1912年に、柳子明は1919年にそれぞれ中国に渡り、ともに中国で30年代、積極的に抗日独立運動に従事した著名なアナキストたちである。巴金とはアナキストの同志としてかかわった人たちである。彼らとの交流の中で、巴金は在中国朝鮮人アナキストの活動の詳細を理解し、それを作品に反映させた。

「髪の話」；朝鮮人金は中国人銘と恋愛し結婚したが、朝鮮人であるが故に、敵（日本官憲）に追われ、また中国人からも蔑視され、平穏には暮らしていけない。「私」（中国人の巴金）はそれに対してどうしようもない苛立ちを覚える。「火」；1937年8月、日本軍は上海を攻撃し11月に占領した。その激しい日本軍の爆撃の下、上海で朝鮮人グループが売国奴であるひとりの朝鮮人を暗殺する活動を描いている。

巴金は作品を通して、共通の敵日本帝国主義を打倒する運動に立ち上がることによってのみ、民族の真の連帯ができることを訴えている。（日本人にとっても同様である。）

新図書案内

- 新生 [1928~1934] 1巻~5巻 韓国教会史文献研究院 ソウル 同院 1992
 日帝下公判記録 [コピー] 鄭 仁果牧師篇 //
 大道 [1908年~1912年] 1巻~3巻 ソウル 韓国教会史文献研究院
 日韓漁村の比較研究 益田 庄三 京都 行路社 1991
 朝鮮日報縮刷版 [1989年1,2月号~1991年1月号] 朝鮮日報編集局 ソウル 同局
 釜山鎮教会 100年史 朴 孝生 釜山 1991
 日本宗教史 I, II [近世以前, 以後] 笠原 一男 東京 山川出版社
 中国国民革命の研究 狭間 直樹 京都 京都大学人文科学研究所
 儕軒文集 ソウル 1988
 南北朝鮮の法制定史 金 圭昇 東京 社会評論社 1990
 朝鮮・韓国関係図書目録 広島県立図書館 広島 同館 1990
 정동제일교회의 역사 (1885~1990) 柳 東植 기독교대한감리회 1992
 [1991年7,8月~11,12月] 朝鮮新報社 東京 同社 1991
 한국근대사의 기독교사적 이해 윤 경조 서울 역민사
 앞제하 한국기독교와 사회주의 집 흥수 " 한국기독교역사연구소

研究会御案内

- 合同研究会 1992年11月15日 [日]
 1部 在日朝鮮人運動史研究会 第149回例会
 時 間 午後1時~3時
 報告者 金 英達氏
 テーマ 「1945年の兵庫県朝鮮人労務者」
 2部 朝鮮民族運動史研究会 第119回例会
 時 間 午後3時半~5時半
 報告者 飯沼 二郎氏
 テーマ 「日帝下朝鮮の米穀検査制度」
 日, 韓キリスト教史研究会 第28回例会
 日 時 1992年11月28日 [土] 午後2時
 報告者 後藤 聡氏
 テーマ 「韓国キリスト教の歴史IIの9章の3, 4」

※場所はいづれも青丘文庫にて